マタイ 18:18-20「神の栄光シェキナー・イエスはわたしたちと共に！」

緒言　2006 年より私はある神学論争に関わっておりまして、もう 12 年になりますが、その間、本物のキリストと偽者のキリストの本質的な違いは何だろう、ということをずっと考えておりました。特に、イエス様はキリストとしてご自身をどのように自覚しておられたのか、これを「メシアの自己理解」と言ったらよいでしょうか。イエス様はご自分のことを、どう思っていたのでしょう？

1　今日はそれを見るために、イエス様の発言に注目したいと思うのですが、マタイによる福音書 18:18 以下、特に 20 節ですね。

2　そこで言われているのは、2 人または 3 人がイエスの名によって集まるところには、イエスも共におられる、ということです。こういう発想を、イエス様は、どこから得られたのでしょうか？

3　イエス様はユダヤ人ですから、子どもの時から聖書を学んで育たれました。ユダヤ人の男の子は、モーセの律法を暗誦させられて、12 歳になったら、みんなの前で少しも間違えずに律法を朗読できるかテストされ、合格すると一人前の大人と認められます。イエス様は、いろんな律法の教師から聖書を学ばれたことでしょう。ルカによる福音書 3:41 以下を読むと、12 歳のイエス様は、律法学者たちをびっくりさせるほど聖書をよく知っていたことがわかります。

4　そうした律法学者たちの聖書解釈をまとめたタルムードという本があります。それを見ると、イエス様と同時代の律法学者が、どんな聖書解釈をしていたかがわかります。タルムードのピルケ・アヴォート第 3 章にハナニヤ村のラビ・ハラフタが説いた教えが載っているのですが、それが興味深いんですね。

5　ハナニヤ村のラビ・ハラフタは「2 人または 3 人が共に律法を学ぶところには、神の栄光シェキナーが共にいる」と説きました。これは、イエス様が言われた、2 人または 3 人がイエスの名によって集まるところにはイエスが共にいる、という言葉とよく似ていますよね。

6　イエス様は、ラビ・ハラフタの教えを知っていたんでしょうか？　ラビ・ハラフタが住んでいたハナニヤ村について、タルムードのバヴァ・メツィアという章には「ハナニヤ村(カファル・ハナニヤ)はカナ村(カファル・カナ)である」と書かれています。ハナニヤ村というのは、カナの村なんですね。ガリラヤ湖畔にあった漁師の村カナは、イエス様が最初の奇跡を行われた場所です。ヨハネによる福音書 2:1 以下にそれが出ていますが、2:11 ではイエス様が「その栄光を現された」と書いてあります。栄光というのは、原文のギリシャ語では「ドクサ」となっています。

7　ユダヤ教百科事典で「神の栄光シェキナー」の項を見ますと、新約聖書で「輝き」に言及している箇所、ギリシャ語の「ドクサ」という言葉が用いら

れている箇所は、すべてヘブライ語の「シェキナー」神の栄光を指しており、シェキナーに相当するギリシャ語は、ドクサの他には無い、と説明されています。この説明に立てば、ヨハネ 2:11 は、「イエスはカナで神の栄光シェキナーをあらわされた」と言い換えられることになります。

８　二人または三人が律法を学ぶところには神の栄光シェキナーが共にいる、という、このシェキナーとは、どういうものなんでしょう？　聖書学者 G.H.ボックスによれば、シェキナーは、もともとは「留まる」とか「宿る」という意味であって、神の臨在が人間の目に見える輝きとなって現れる様子、その輝きが人間の間に留まる様子を表す言葉だということです。

９　神の栄光の輝きが人間の間に留まった、という出来事は、旧約聖書にいくつも出てきます。たとえば

出エジプト記(33:18 以下)では、神の栄光がモーセの目の前を通ります。

民数記(9:15 以下)では、神の栄光が会見の幕屋に臨みます。

列王記上(8:10 以下)では、神の栄光がエルサレムの神殿に満ちます。

イザヤ(6:1 以下)では、神殿に満ちる神の栄光をイザヤが目撃します。

１０　このように、神の栄光シェキナーはイスラエルの人々と常に共にあったのですが、ご存知のようにイスラエル・ユダヤの民は、まことの神を捨てて偶像を拝むようになりました。その堕落して行った様子が列王記や歴代志に描かれています。堕落の結果、ついに裁きを受け、エルサレムの神殿はあとかたもなく破壊され、ユダヤ人はバビロンに捕囚されました。

１１　神の裁きでエルサレムが破壊される直前、神の栄光シェキナーが神殿から去った、ということが聖書に書かれています。エゼキエル 10 章、新共同訳で 10 章の表題は「主の栄光が神殿を去る」となっています。

１２　ユダヤ人は 70 年の捕囚が終わるとエルサレムに帰って来て、破壊された神殿を建て直しました。ネヘミヤ記とエズラ記にその様子が書かれています。建て直された神殿を第 2 神殿と言いますが、第 2 神殿はシリアのアンティオコス・エピファネスによって汚されました。しかし神様はマッテアとマカバイを起こして宮清めを行われました。この宮清めを記念したのがユダヤ教のハヌカーの祭ですね。マカバイの活躍は旧約聖書続編のマカベア書に書かれています。しかし、マカバイの子ら、ハスモン家の者たちは内輪で争い、ローマのコンスル・ポンペイウスの介入を招いてユダヤはローマの属州となり、エドム人ヘロデがユダヤの王としてローマ人の手により立てられました。ヘロデはユダヤ人の歓心を買うため多額の金を注いで神殿を美しく改装しました。これが夕焼けに黄金色に輝いて、オリブ山からそれを眺めるイエスの弟子たちを驚嘆させたヘロデの神殿と言われるものです。

１３　ところが、ラビたち、律法学者たちは、第 2 神殿・ヘロデの神殿には

神の栄光シェキナーが宿っていない、と考えていました。エゼキエル書10章で神の栄光シェキナーが神殿を去って以来、それは戻って来ていない、とラビたちは考えていたのです。しかし、いつか救い主メシアがエルサレムに来る。そのとき、神の栄光シェキナーが再び神殿に戻る、とラビたちは信じて、メシアを待ち望んでいました。

１４　ユダヤ人は神の栄光シェキナーについて、こういうふうに理解していたんですね。イエス様も同時代のユダヤ人として、当然こうした理解を小さい頃から知っておられたと思います。

１５　そのイエス様は、ご自身のことを何と言ったでしょう？　ここでもう一度、最初に見たマタイ18:18以下に戻ってみましょう。2人または3人がイエスの名によって集まるところにイエスが共にいる。もしイエス様が、あのラビ・ハラフタの「2人または3人が律法を学ぶところには神の栄光シェキナーが共にいる」という教えをふまえてこの発言をしたんだとするならば、イエス様はご自分を神の栄光シェキナーと同一視していた、ということになるんではないでしょうか？

１６　ちょっと注意して見てみましょう。ラビ・ハラフタは「律法を学ぶところにはシェキナーが共にいる」と言いました。ラビ・ハラフタは律法を重視していますね。一方、イエス様は「イエスの名によって集まるところにはイエスが共にいる」と言っています。イエス様は、律法とイエスを同等に置いて考えているようですね。

１７　さらにイエス様は、律法についてこういう発言しています。マタイ5:17以下「天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない」これに対し、イエス様はご自分についてマタイ 24:35 で「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と言われています。この 2 つを比較すると、重要なことがわかりますね。

１８　どういうことになりますか？　律法は、天地が滅びると、天地と共に消え去ります。ところが、イエス様の言葉は、天地が滅びても消え去らない、というのです。つまり、イエス様の言葉は、律法に優越している、ということになりますよね？

１９　この点においてイエス様は、ラビたちの教えを超えて行ってしまうのです。ラビたちにとって律法はどこまで行っても絶対的なもの・最終的なものです。律法が消え去るなんてラビたちにはとても考えられません。ところがイエス様は、律法は天地と共に消え去るが、わたしの言葉は決して消え去らない、わたしの言葉は律法に優越する、という主張をなさるのです。

２０　このように、イエス様の「メシアの自己理解」は、第 2 神殿時代のユダヤ教を背景にしながらも、それを超えていることがわかります。それが、律

法学者たちがイエス様につまずき、イエス様が十字架につけられることになった理由でもあるでしょう。

２１　ところで、律法より優越している、なんてものがあるんでしょうか？天地が消えても決して消えない、なんてものがあるんでしょうか？　あるとしたら、それは神様ご自身か、神様から輝き出る神の栄光シェキナーだけですよね？

２２　もしイエス様が、ほんとうにご自分を神の栄光シェキナーと同一視していたんだとしたら、福音書に出て来るイエス様のいろいろな発言は、確かにぜんぶ筋が通っているように思われます。ヨハネ 17:1「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください」ヨハネ 8:12「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」

ヨハネによる福音書では、その冒頭で、イエスがまさに光であった、と宣言されています。1:14「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」

２３　イエス様が神の栄光シェキナーであるなら、イエス様の本当の姿、本来の姿は、まばゆいばかりに輝く姿であるはずです。イエス様は、そのお姿を一度だけ弟子たちにお見せになったことが聖書に記録されています。マタイ 17:1 以下を見ると、イエス様のお姿が太陽のように輝き、光り輝く雲で覆われました。旧約聖書で神の栄光が現れるとき、必ず雲がわきでて、栄光を覆ったことを思い出しましょう。変貌山の出来事はまさに、イエス様の本当の姿、神の栄光シェキナーが、弟子たちにはっきりと示された瞬間ではないでしょうか。

２４　そのイエス様は、ロバの子の背に乗ってエルサレムに入城されました。さっきも言いましたが、ラビたちは、第 2 神殿が再建されたけれど、神の栄光シェキナーは戻っていない、と考えていました。しかし、世の終わりにメシアが来る。その時、シェキナーが再び神殿に宿る。ラビたちは、そう期待していました。果たして、イエス様がエルサレムに入城したことによって、シェキナーは神殿に戻ったんでしょうか？

２５　ここで重要なのが、神殿についてのイエス様の発言です。　ヨハネ 2:19 以下、特に重要なのが 21 節です。「イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである」　つまり、イエス様の体こそ神殿である、というのです。

２６　イエス様が神の栄光シェキナーであり、シェキナーが宿る神殿がイエス様の体であるとするならば、どういうことになるでしょうか？　2:19 でイエス様が言われた「わたしはこの神殿を三日で建て直す」という言葉の真意は、イエス様が三日目に復活することによって、シェキナーを宿す新しい神殿、永

遠に朽ちることのないよみがえりの体という新しい神殿が出現するんだ、という意味になりますよね？

２７　さて、第 2 神殿は、預言者ダニエルの預言の通り、油注がれた君メシア・キリストが不当に殺されたのち、次に来る指導者すなわち西暦 79 年にローマ皇帝に即位することになるティトゥスが率いるローマ第 10 軍団によって西暦 70 年に神殿は完全に破壊され、以来 2000 年、エルサレムの神殿はいまだに破壊されたままの状態です。

２８　しかし、イエス様は三日目に復活し、永遠に朽ちることのないよみがえりの体をもって、新しい神殿となってくださった。わたしたちは、復活のイエスの体という新しい神殿を通して、神の臨在、神の栄光、神の輝きにあずかることができる。新約聖書は、わたしたちにこう勧めています。ヨハネ 12:36「光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」　エフェソ 5:8「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい」

２９　光であるイエスを信じるなら、わたしたちも光になる、とは、新約聖書によれば、こういうことになります。すなわち、神の栄光シェキナー・イエスがエルサレムに戻って来られた。十字架にかかり三日目に復活し、新しい神殿が出現した。それは、復活のイエスの体という永遠に朽ちることのない新しい神殿です。そして、ペンテコステの日にイエスを信じるすべての人に聖霊すなわちイエスの御霊が注がれた。神の栄光シェキナー・イエスの御霊が、人類全体に注がれたのです。いまや、わたしたち人類は、神の栄光シェキナー・イエスが宿る「神殿」とされました。それはパウロがコリントの信徒への手紙一 6:19 でこう言っているとおりです。「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」

３０　今日の結論として、コリント二 3:17-18 をお読みしたいと思います。「ここでいう主とは“霊”のことですが、主の霊のおられるところには自由があります。わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです」アーメン！

３１　わたしたちが今日行った探求の結論は、ここまでとしたいと思います。お祈りいたしましょう。

祈り

神から出た神、光から出た光、まことの神から生まれたまことの神、
父なる神から生まれた独り子なる神、
神の本質の真の姿、神の栄光の輝き、
変貌山においてまことの姿を現してくださった神の栄光シェキナー•イエス様。
あなたは十字架にかかり、わたしたちの罪をつぐない、死んで墓に葬られ、
よみにくだり、三日目に復活し、
永遠に朽ちることのないよみがえりの体を新しい神殿として、
ユダヤ人だけでなく、イスラエルだけでなく、エルサレムだけでなく、
全人類の内に宿ってくださって
わたしたち異邦人を聖なる国民・祭司の民となるよう召してくださいました。
いま、あなたを信じるわたしたちに、あなたの御霊を注いで、
あなたの光で満たし、あなたが光であるように、
わたしたちを光の子としてください。
どうかわたしたちを助けて、
光の中で、光であるあなたと共に、光に向かって生きることができるように
みちびいてください。
神の栄光シェキナー・イエスの御名によって祈ります。アーメン